

加賀市教育旅行用探究ワークブック

加賀温泉郷×探究

人々の営みと文化が語るSDGsを味わおう

教師用授業案

教師用授業案 目次

- 目次、ワークブックのねらい、ワークブックの構成 …… 2
- ワークブックの進め方 …… 3
- 授業案
 - ❖ 事前学習（1） …… 5
 - ❖ 事前学習（2） …… 6～7
 - ❖ 現地学習 …… 8
 - ❖ 事後学習（1） …… 9
 - ❖ 事後学習（2） …… 10

ワークブックのねらい

本ワークブックは、加賀温泉郷の文化を体感することで、その背景にある人々の営みや歴史に思いを馳せ、「加賀ならではの」の魅力を見つけていくような作りになっています。また、加賀の魅力を見つけて終わりではなく、そこから自分自身や地元の地域に立ち戻って考えをめぐらすことで、「地域ならではの」を見つけるための足掛かりとなり、はては地元に対する「愛着心」を育みます。学校の一行事が、「自分が地元に対してできる最初の一步」へと結びつくことで、将来までつながるきっかけとなれば、生徒たちにとってきっと思い出以上のものを得られることでしょう。加賀市では、「古いもの、歴史あるもの」と「新しいもの、進化しているもの」の両方を味わうことができます。それらが、相反することなく両立しており、さらなる魅力を組成していることに気づくと、“なぜそのような文化が作られてきたのか” “人々はどのような想いをしているのか” というような次の問いが生まれてくるはずです。それこそが、探究的なものの考え方につながるのです。

生徒の皆さんには、旅行として楽しみながらも、加賀市の魅力と自分の未来がどこかでつながっていることを意識できるような学びを得ていただきたいと考えています。この『教師用授業案』は、先生方に教育旅行全体を通しての学びをスムーズに進めていただけるよう、指導の流れを中心に示しています。思考の手助けとなるようなヒントも掲載していますので、ぜひご活用いただければ幸いです。

ワークブックの構成

本ワークブックは、旅行前に取り組む「事前学習」、旅行中の体験内容や考えをまとめておく「現地学習」、旅行後に加賀での学びを自分ごととして考える「事後学習」の大きく3つに分かれています。

下記は、それぞれの学習内容を大まかに示しています。

事前学習

1章 加賀市を知ろう！

旅行前に、**加賀市についての情報**を押さえます。事前におおよその情報をインプットすることで、興味・関心を引き出し、現地での学習意欲につなげます。

2章 加賀市の探検準備

事前の情報を基に、**現地で知りたいことや確かめたいことをあらかじめ考えておく**ワークです。旅行でどんなことに着目すればよいかの視点を養います。

現地学習

3章 加賀市探検中の気づき

現地での体験をメモの形でまとめておきます。どんなことに自分の心が揺り動かされたのかを書き留めておくことで、改めて自分自身のリアルな想いに気づくことができます。また、旅行後の振り返りにも生かします。

事後学習

4章 加賀で学んだこと

旅行で体験したことを軸に、**探究的に考えを深めていく**ワークです。まずは、旅行で発見した加賀市の魅力と、それがなぜ魅力と感じるかを深掘りしていきます。さらに、自分の地元地域において同じように考えることで、これから先の“自分”と“地域”のつながりを、より自分ごととして考えられるようになります。

ワークブックの進め方

本ワークブックは、以下のような流れで学習します。使用するワークブックの学習内容とページを示しました。「事前学習」と「事後学習」では、目安となる授業時間数を示していますが、学習内容や授業時間、クラスの状態によって調整が可能です。

宿題 も可 …宿題など、授業外の時間に進めてもよいワーク

難 …生徒によっては難しめに感じることもあるので配慮が必要なワーク

事前学習（2コマ）

1章 加賀市を知ろう！

2章 加賀市の探検準備

- 事前学習（1） [5分] 本ワークブックの概要と学習内容を把握する（p.2）
[10分] SDGsについて概要を押さえる（p.3）
[10分] 加賀市全体の知識を得る（p.4-5）
[10分] 加賀温泉郷の3つの温泉地を押さえる（p.6-9）
[15分] 自分たちが訪れるエリア・温泉地の情報を調べる

宿題 も可

- 事前学習（2） [20分] 温泉地での街歩きの行程を決める（p.14-15）
[15分] 加賀市でのSDGsを体感するスポットを知る（p.10-13）
[25分] 訪問する文化スポットについて調査する（p.16-17）

宿題 も可

現地学習

3章 加賀市探検中の気づき

- 現地学習 [見学・体験等] 現地での気づきを4分類でメモする（p.18-19）

事後学習（2コマ）

4章 加賀で学んだこと

- 事後学習（1） [20分] 「加賀ならではの」の魅力SNAPを作成する（p.20） *1
[10分] 旅行で見つけた加賀の魅力をまとめる（p.21）
[10分] 魅力ポイントの共通点を見つける（p.21）
[10分] 次の世代に残したい魅力の「温故知新」を考える（p.21）

宿題 も可

難

- 事前学習（2） [30分] 自分の住む地域を、加賀市と同じように探究する（p.22）
[20分] これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめる（p.23）

宿題 も可

POINT



事後学習は旅行終了後に実施する想定で記載していますが、旅程や学校のご都合により現地の宿泊施設などで進める場合、*1のワークは省略してもかまいません。

授業案

この資料では、実際の授業の進め方について、コマごとの説明をしています。実際の学校での進行によって柔軟な対応が必要になると思いますので、参考としてお使いください。

※本書では1コマ=50分で想定しています。

事前学習 (1)

学習目標

- ・ 修学旅行での学習の流れを押さえる。
- ・ SDGs について概要を学ぶ。
- ・ 加賀市の一般的な情報を知る。

学習の流れ

- [5分] 本ワークブックの概要と学習内容を把握する (p.2)
- [10分] SDGs について概要を押さえる (p.3)
- [10分] 加賀市全体の知識を得る (p.4-5)
- [10分] 加賀温泉郷の3つの温泉地を押さえる (p.6-9)
- [15分] 自分たちが訪れるエリア・温泉地の情報を調べる

詳細

授業時間に余裕がある場合は、次時で扱う p.10-13 を読ませておかまいません

■本ワークブックの概要と学習内容を把握する (p.2)

『加賀温泉郷×探究』ワークブックは、加賀市への教育旅行全体を通じて活用していくことで、最終的に「身近なところにあるこれまで気づかなかつたよさ」に気づけるようになるよう組み立てられています。加賀市の多様な魅力に触れ、自分や地元地域とのつながりを見つけていくことで、「自分の住む町も魅力があって、守っていかねばいけません」という意識の醸成をねらっています。

※この段階で、「事前学習」「現地学習」「事後学習」の3つに分かれていることと、それぞれの要点を伝えておくことでスムーズに学習が進みます。

※各学習の要点は本授業案 p.2 に掲載

■SDGs について概要を押さえる (p.3)

ここでは、意識してほしい SDGs の考え方を押さえます。SDGs ウェディングケーキ・モデルを通じ、配慮すべき3つの領域(生物圏・社会圏・経済圏)の接続性を感じさせます。

SDGs ウェディングケーキ・モデルは、SDGs の17の目標がそれぞれ深く関連し、支え合っていることを表現しています。最下段の「生物圏」の上に「社会圏」が成り立ち、さらにその上の「経済圏」が成り立つ。そして中心を「パートナーシップ」が貫くことで、すべての目標の同時達成が必要なことを指しています。いずれが欠けてもウェディングケーキが成立しないように、どの目標も欠かすことはできず、また同時に達成していく必要があることを説明してください。

■加賀市全体の知識を得る (p.4-5)

加賀市がどんな街なのかを、数字的特徴・地理的特徴の側面から紹介したページです。市章や気候、交通など、さまざまな視点で紹介していますので、生徒個人の興味・方向性により、「深掘りしたい」と思う箇所が異なります。読み進めながら気になるところにマーカーを引くなどをするとよいでしょう。

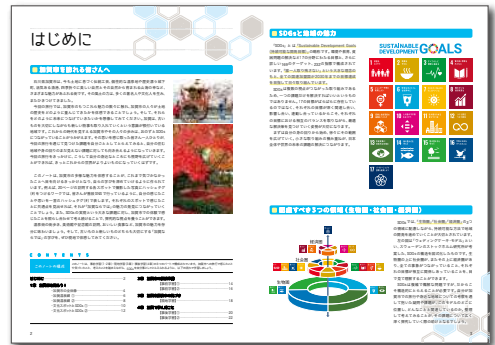
■加賀温泉郷の3つの温泉地を押さえる (p.6-9)

加賀温泉郷全体と、それを構成する3つの温泉地「片山津温泉」「山代温泉」「山中温泉」のそれぞれの特色とスポットを紹介しています。独自文化として発展した「総湯」を中心に加賀温泉郷の歴史を知ったうえで、各地の歴史的、景観的な特徴をおさえます。一言で温泉地と言っても、3エリアそれぞれで違いがあります。それを意識させると、さらに理解が深まるでしょう。余裕があれば、その違いが何から来ているのかを考えさせてもよいでしょう。

■自分たちが訪れるエリア・温泉地の情報を調べる

グループ活動

p.4~9 で知識をある程度入れたのち、具体的に旅行の行程を考えるために、インターネットやパンフレット、ガイドブックなどを活用して調べていきます。自主行動(街歩き)を検討する際に、生徒に意識してほしいのが「加賀温泉郷になぜ〇〇があるのか」を考えるということです。この後、p.14-15 では、温泉地での街歩きで訪れるスポットやルートを決めることとなります。それも踏まえて、情報収集を行うように促しましょう。



事前学習 (2) - 1

学習目標

- ・街歩きの行程を考える。
- ・加賀の文化と SDGs の関連を学ぶ。
- ・訪問先について調べ、「加賀ならでは」を探するための考え方を学ぶ。

学習の流れ

- [20分] 温泉地での街歩きの行程を決める (p.14-15)
- [15分] 加賀市での SDGs を体感するスポットを知る (p.10-13)
- [25分] 訪問する文化スポットについて調査する (p.16-17)

授業数は基本1コマとしていますが、課題とするなど授業外にグループで検討できるよう状況に応じて指示をしてください。

詳細

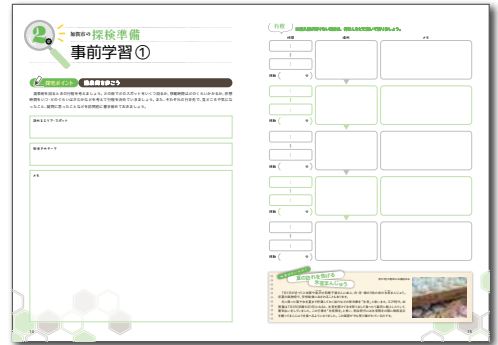
■温泉地での街歩きの行程を決める (p.14-15) グループ活動

前時で調査した情報を基に、**街歩きで訪れるスポットと行程**を考えます。行程は、移動時間や休憩、昼食なども含まれますので、それを踏まえてスケジュールングするとよいでしょう。

また、街歩きには「街歩きのテーマ」をそれぞれ設定します。テーマは自由に設定してよいですが、**気になることや疑問を解決するための「加賀で見つきたいもの」**を中心にする、旅行での学びに一貫性が出ます。

テーマの例)

- 山代温泉の昔ながらのものを探そう
- 街の建物を味わおう



”文化を感じる”ヒント 1

加賀市には、地域に住む人々の営み(暮らし)が随所に見られます。町並みを眺めるだけでも、自分の地元地域との異なりを発見できることでしょう。生徒には、街歩きではまわりを見渡しなが、「自分が知っているものと違うかもしれない」というものに注目するよう促しましょう。

”文化を感じる”ヒント 2

加賀市の温泉地には、それぞれ独自の文化が根付いています。買い物時や施設利用時に、地域の方に話を伺ってみるのもよいでしょう。
※話しかけることが迷惑になる場合もあるので、注意が必要です。

■加賀市での SDGs を体感するスポットを知る (p.10-13)

ここでは、加賀市の文化がどのように SDGs の意識と結びついているかを3つのテーマから示しています。**加賀市がこれまで紡いできた歴史から、人々が意識せずに取り組んできたことや守ってきたことが、実は SDGs につながっていたということに気づくこと**でしょう。

また、ページの下半分では、それぞれのテーマに用意された現地での体験プログラムも紹介しています。訪問しない施設であっても、読んでおくことで多角的な視点での学びが期待できます。
※体験プログラムに参加する場合は、それぞれのプログラムで用意されている事前学習の内容も踏まえて進めてください。

◆テーマ① SDGs から見た北前船

橋立地区を中心に栄えた北前船の文化について学びます。その歴史や、北前船が運び発展した伝統工芸品、和食文化など、さまざまな観点があり非常に探究的な学びに適しています。

◆テーマ② 伝統工芸と SDGs

加賀市を中心とした地域で発展した伝統工芸に着目しています。ここでは、九谷焼と山中漆器について説明していますが、派生させた学びとして「北大路魯山人との関連」「伝統工芸の現状と課題」「持続可能な産業にするための努力とは」などを投げかけてみるのもよいでしょう。

◆テーマ③ 雪の科学館と SDGs

雪氷学の分野の発展に貢献した、中谷宇吉郎博士の研究を扱っています。博士の発見と功績は、2024年春の北陸新幹線延伸にも少なからず関連しています。博士の研究が現在、そして未来にどうつながっているかを探してみましょう。



事前学習 (2) - 2

詳細 (続き)

■訪問する文化スポットについて調査する (p.16-17)

16 ページでは、訪問するスポットについて、施設の詳細や文化的背景などを事前に調べます。元々持っていた知識や印象も整理したうえで、この段階での印象や分かったことを書き込ませます。

また、訪問時に知りたいことや現時点で疑問に思うことも書き出していき、現地での学びに生かすことが大事です。ここでの正解はないので、どんな小さな気づきや疑問でもよいことを伝えてください。

本ワークブックでは、**加賀市への旅行をまとめて「探検」と称しています。**

探検では、「加賀ならではの」を見つけることを目的としています。そのために、どんなところに注目すればよいかを示していますので、それらを指針にして、探検に出かけましょう。旅行中にはいろいろなものに興味をもち、五感を活用して楽しむことが、次への学びにつながります。

17 ページでは、事前学習のまとめとして、旅行直前の自分の考えを書き留めておきます。ワークブックの前半で紹介されていることや、自分が調査した内容などから、現在の自分の興味・関心がどこにあるのか意識しながら記入をさせてください。

◇ ◇ ◇

加賀の「温故知新」を見つけよう！

加賀市には、歴史を感じる「故き（古き）もの」との進歩的な取り組みの「新しきもの」が存在します。

例として、山代温泉の古総湯は、明治時代の総湯を復元して作られました。新しい建物ですが、外観はもちろんのこと、浴室の床や壁の九谷焼のタイルなどまで当時のまま復元されており、入浴しながら歴史や文化を味わえるようになっています。昔のよい伝統を今に受け継ぐ、「体験型温泉博物館」となっています。

このように、歴史あるものを生かしながら、新しいものと組み合わせることで、持続的な魅力を生み出しています。これを、ワークブックでは四字熟語の「温故知新」に見立てることで、生徒にも分かりやすく示しています。

現地での注目ポイントを、この「温故知新」をベースに探そうにしようとアドバイスしておく、「加賀ならではの」を見つけるヒントとなります。

参考ウェブサイト

ワークブック内で紹介しているスポット以外にも、まだまだたくさんの魅力ある場所があります。加賀温泉郷全体や、それぞれの温泉地の観光サイトを中心に参考にしてみましょう。

加賀温泉郷

<https://www.tabimati.net/>

片山津温泉

<http://www.katayamaz-u-spa.or.jp/>

山代温泉

<http://yamashiro-spa.or.jp/>

山中温泉

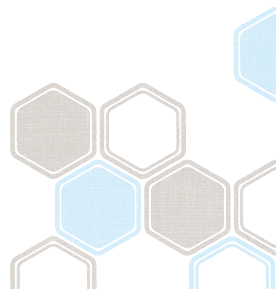
<https://www.yamanaka-spa.or.jp/>



デザインからひもとく思い

本ワークブックの表紙および本文中には、六角形のパーツが使われています。これは、加賀市の名産である九谷焼に見られる紋様の一つからデザインしたものです。六角形をいくつも組み合わせることで、加賀市には多様な魅力があることを表現しています。また、片山津温泉に建つ「中谷宇吉郎 雪の科学館」で学べる雪の結晶の形も六角形に近く、イメージの元となっています。

このように、本のデザイン一つからも現地の魅力を感じることができます。ぜひ、問いかけのヒントにしてみてください。



現地学習

学習目標

- ・加賀市で見聞きしたことや気づき、感想を後から振り返れるようにメモを取る。
- ・事前学習で考えたことを、現地での着眼点につなげる。

学習の流れ

[見学・体験等] 現地での気づきを4分類でメモする (p.18-19)

詳細

■現地での気づきを4分類でメモする (p.18-19)

現地学習用に用意しているメモ欄は、4つの枠に分かれています。事後学習において、振り返りが容易にできるよう、**現地での体験を「生徒自身の感情の揺れ動き」に即してメモできるように**しています。あらかじめメモの種類を把握しておき、自身の素直な感情に沿って円滑に書き込めるように準備しておきましょう。

訪れた施設の見学や体験で知ったことその他、以下のような点も意識して随時メモしておく、自分だけのリアルな「気づきのメモ」となるはずです。

- ・見聞きしたこと、体験したことから自分なりに考察した内容
- ・話を聞いた際の印象や感想、疑問
- ・訪問先以外の移動中（歩きながら、バスの車窓からなど）や、友達との会話、宿泊施設などで気づいたこと



4分類の詳細を下記に示しています。各カテゴリを端的に表したキーワードも表示していますので、イメージをより明確にするように生徒へ伝えてもよいでしょう。

◆何それ！おもしろい！

見学したことや説明などの中で、興味・関心がわいたもの、もっと調べたいと思ったことを書くようにします。
キーワード：興味

◆愛があふれてる

地元の人や名産などから郷土愛を感じたことや言葉を書き留める場所としています。昔から受け継がれてきたことから派生して、現在でも愛されていると思ったことを書き込みます。
キーワード：愛着

◆深イイ

加賀市の人々の取り組みや歴史の中で、しみじみと深く感じ入ったこと、心の琴線に触れたことなどを書き込むスペースです。四季折々の風景などから感じたことも書きましょう。
キーワード：感動

◆目からうろこ

新たに発見したことを中心に、「実はね…」のような裏話やこれまでの知識が覆るような事実など、驚いたことを書くようにします。
キーワード：驚嘆

事後学習（1）

学習目標

- ・加賀市での体験を振り返る。
- ・加賀市の魅力を持続可能性の観点から整理する。

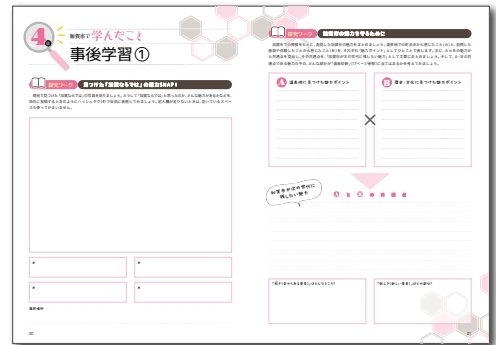
学習の流れ

- [20分] 「加賀ならではの」の魅力 SNAP を作成する (p. 20)
- [10分] 旅行で見つけた加賀の魅力をまとめる (p. 21)
- [10分] 魅力ポイントの共通点を見つける (p. 21)
- [10分] 次の世代に残したい魅力の「温故知新」を考える (p. 21)

詳細

■「加賀ならではの」の魅力 SNAP を作成する (p. 20)

加賀市の訪問において、印象に残ったことを写真を使って表現します。旅行中に撮影した写真や動画などをプリントアウトして貼りつけます。貼りつけ箇所の下部には、SNS への投稿を模したハッシュタグ (#) 欄を設けました。その写真のどこに注目しているのか、あるいは何を感じたのかを自由に表現してかまいません。ハッシュタグは、生徒たちにもなじみがありますので作業イメージがつきやすいでしょう。紙に印刷することが難しい場合は、絵や図に描き起こしたり現地でもらったパンフレットなどを切り貼りしたりしてもかまいません。また、複数枚の写真を組み合わせてみるのも面白いでしょう。
※宿題としてあらかじめ写真を選んでおいてもかまいません。



■旅行で見つけた加賀の魅力をまとめる (p. 21)

p. 20 の魅力 SNAP を踏まえて、さらに加賀市の魅力ポイントを言語化していきます。3つの温泉地での街歩きで見つけた魅力ポイントを「A」、訪問施設や体験で歴史や文化の中に見つけた魅力ポイントを「B」として、それぞれの欄に書き込みます。加賀市で感じた、あるいは発見した多彩な魅力を、旅程に合わせた形でそれぞれ挙げることで、生徒自身が「これ」と思うものを絞りやすくなっています。何を「よい」と思うかは人それぞれなので、それを「なぜよいと思ったのか」「どこがよいと思ったのか」を表すことが大事です。なかなか考えがまとまらない生徒には、p. 18-19 の「現地学習」ページを再度活用するとよいと伝えてください。

■魅力ポイントの共通点を見つける (p. 21)

記入した魅力ポイント「A」と「B」を見渡して、共通点を探ってみます。その共通点こそ、「加賀市の魅力の本質 = 次の世代に残したい魅力」となります。共通点は、目に見えるもの、見えないものどちらでもよいですが、何に着目したのかとその理由を考えると、より具体的な文章となります。

記入例)

A 温泉地に見つけた魅力ポイント

地元の方が総湯に集まって談笑している風景が印象に残った。総湯が地域の中心になって日常が回っていると感じた。僕は銭湯には特別な時しか行かないので、総湯がコミュニティの場となっている文化は魅力だと思う。

B 歴史・文化に見つけた魅力ポイント

九谷焼の歴史の奥深さに感動した。一度歴史が途切れた過去があるからこそ、加賀では大切にされていると思うし、今では暮らしに欠かせないものになっているのだと感じた。また、学芸員の方の話からも、九谷焼は加賀の自慢なんだという思いが伝わってきた。

AとBの共通点

どちらも昔から続いているものなのに、「古い」という印象は感じなかった。総湯や九谷焼など、大切にしているものが地元根づいていると、無意識に今の時代に合うような形に変化していつているのかもしれない。無理ではない自然な変化は、それ自体が持続可能であると考え、加賀市は大切なものを日常に溶け込ませることが出来るという魅力を持っていると思う。

■次の世代に残したい魅力の「温故知新」を考える (p. 21)

次の世代に残したい魅力から、「温故知新」を見つけます。「故き（古き）もの」「新しきもの」それぞれが、どのように組み合わせられているかを考えましょう。「新しき」は単純な技術の発展に留まらず、人々の価値観の変化や国際的な取り組みなど、さまざまな観点から捉えると見つかりやすくなります。

事後学習 (2)

学習目標

- ・ 加賀市での体験を自地域と接続させる。
- ・ 自地域の魅力と課題に目を向け、自分ごととして捉える。
- ・ 将来に向けて理想の姿を思い描く。

学習の流れ

- [30分] 自分の住む地域を、加賀市と同じように探究する (p. 22)
- [20分] これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめる (p. 23)

詳細

■自分の住む地域を、加賀市と同じように探究する (p. 22-23)

p. 21 のワークと同じように、次は自分の住む地域についても考えてみましょう。

加賀市で魅力的だと思ったことと共通するもの、または似たような考え方で魅力を守っているものなどをピックアップします。当該ページには「スポットを探す」とありますが、施設や街角の景色でもよいですし、伝統工芸などの産業、祭りなどの行事、スポーツ、地域で有名な偉人など、どんなもの・ことでもかまいません。**加賀市と連動させて考えることが、魅力を見つけるヒント**となりますので、普段見慣れている自分の住む地域でも新たな気づきを得られることでしょう。

自分の住む地域の魅力と、加賀市との共通点を見出したら、それを「〇〇ならでは」として文章にします。

※〇〇には県名や市町村名、地区名など、魅力を考えてエリアを入れてください。

p. 21 と同じように、「なぜよいと思ったのか」「どこがよいと思ったのか」を表すように促してください。また、ここでも「故き(古き)もの」「新しきもの」がどの部分に含まれているかを考えます。理由まで順序立てて考えることで、**自分の住む地域の魅力について掘り下げることが可能**となります。

そこから、p. 23 で「〇〇ならでは」を守るために課題になっていること、課題となっていることを解決するのに何が必要かを記入します。記入したスポットに対する地域の人々の印象などを思い出しながら書くとよいでしょう。



言語化のヒント

1

自分の思考をまとめるときには「自分には何ができるか」をスモールステップで考えていくとよいでしょう。最初から「SDGs」などから考え始めてしまうと、手に余ってしまい漠然とした話になってしまいます。「自分のこととして捉える」を念頭に置くように伝えてください。

言語化のヒント

2

旅行を振り返る際には、「楽しかった」で終わらない仕組みが必要です。本ワークブックでは「探検」を通して自分の変化を感じられるようになっています。書き始めにつまづくようであれば、5W1Hなどのフレームワークを使って整理するとよいでしょう。

■これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめる (p. 23)

学習のまとめとして、『ならでは』を守るためにこれからの自分にできること「自分の理想とする人物像」を考え、文章に整理します。これまでのワークを通じて、**どの地域にも魅力があり、それを守っていくのも自分たち地域の住人だということに気づき、地域の課題に対して自分でも何か貢献できるのではないかという意識**が芽生えたことと思います。それらを文章に整理することで、加賀市での体験が自分ごと化され、これからの生き方・在り方に少なからずよい影響が出ることでしょう。

さらに、**理想とする人物を具体的にすることで、生徒自身の変容を促し、引いては進路やキャリアという次のステップ**にもつながっていきます。今回の加賀市への旅行での学びが、自分の住む地域や生徒自身への意識につながれば、より課題意識を持って何事にも取り組むことができるようになるはずですよ。

時間に余裕があれば、旅行のグループやクラスなどで、書いた内容を発表し合ってもよいでしょう。



ワーク部分は文章で書くことを想定していますが、それにこだわらずに箇条書きの形式にしてもよいでしょう。生徒が課題解決のための第一歩をどう捉えたかが重要です。